



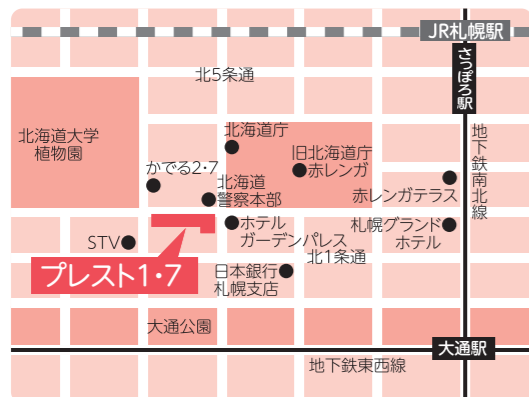
公益財団法人アイヌ民族文化財団とは

当財団は、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発を図るための施策の推進のほか、民族共生象徴空間（愛称:ウポポイ）の運営を行っています。

多様な価値観が共生し、アイヌの人びとの民族としての誇りが尊重される共生社会の実現を図り、あわせて我が国の多様な文化の一層の発展に寄与するため、国内外においてさまざまな事業を実施しています。

公益財団法人アイヌ文化財団

〒060-0001
北海道札幌市中央区北1条西7丁目
プレスト1・7(5階)
TEL. (011) 271-4171
FAX. (011) 271-4181
e-mail:ainu@ff-ainu.or.jp
URL <https://www.ff-ainu.or.jp>



アイヌ文化交流センター

〒111-0041
東京都台東区元浅草3丁目7-1
住友不動産上野御徒町ビル3階
TEL. (03)5830-7547
FAX. (03)5830-7548
e-mail:acc-tokyo@ff-ainu.or.jp



令和8年度 アイヌ語ラジオ講座

講師：はやさか しゅん 駿

7月▶▶9月



STVラジオ

毎週日曜日 朝 7:00~7:15
<https://www.stv.jp/radio/ainugo/>



はじめに

アイヌ語は、アイヌの人たちが話してきた独自の言語です。今でも、私たちが普段から身近に触れているアイヌ語として「地名」があります。アイヌ語が由来とされる地名は、北海道をはじめ、サハリン（樺太）や千島列島、それに東北地方にも数多く残されています。地名の他にも、「エトピリカ」「ラッコ」「トナカイ」など、アイヌ語として意識されずに使われている言葉が多くあります。

現在では、アイヌ語の話者は減少し、アイヌ語を日常会話の言語として使われることが少なく、知っている単語も会話の中に稀に聞かれるだけです。それでも先祖から伝えられてきた言葉を残していこうと、地域においてさまざまな活動が行われています。

この「アイヌ語ラジオ講座」では、初心者向けのやさしいアイヌ語の講座をラジオで放送しております。多くの方々がアイヌ語に触れるきっかけとして、また、初級のアイヌ語を学習する機会として、平成10年よりさまざまな講師をお招きして開講しております。

令和8年度の講師は、旭川市出身、早坂駿さんをお迎えして、アイヌ語の「旭川方言」を学んでいきます。

さあ、私たちと一緒に、アイヌ語の世界をのぞいてみませんか。

2026年4月

「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.2

目次

テキストは3ヶ月ごとに発行しています。

講師・支援研究者の紹介	P. 2
講座のスケジュール	P. 3
レッスン14～26	P. 4
ポッドキャストのお知らせ	P.30
賛助会員募集	P.33

令和8年度 アイヌ語ラジオ講座

講師：早坂駿

7月▶▶9月



STVラジオ

毎週日曜日 朝 7:00～7:15

<https://www.stv.jp/radio/ainugo/>



公益財団法人 アイヌ民族文化財団

講師・執筆者紹介



はや さか しゅん
早 坂 駿

旭川市出身。

アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）での勤務を経て、アイヌ民族文化財団の「伝承者育成事業」「アイヌ語指導者育成事業」を修了。

現在は同財団の職員として活動している。

支援研究者

なか がわ ひろし
中 川 裕 千葉大学名誉教授

このテキストのアイヌ語と表記の仕方について

現在のところアイヌ語には共通的な表現はあるものの、それぞれの地域での言い方が異なります。そのため、このテキストでは担当講師の方言（旭川方言）でのアイヌ語をご紹介します。

スケジュール

月	日	LESSON	テーマ	ページ
7月	5日	14	私を、私たちを(に)〇〇する・複他動詞	4
	12日	15	お前、お前たちを(に)〇〇する	6
	19日	16	まとめ(1) 「～を(に)」を表す人称接辞	8
	26日	17	位置を表す名詞と場所と動詞をつなぐ言葉の表現 「～で」「～へ」「～から」「～に」	10
8月	2日	18	位置を表す名詞(1) 「～の上」「～の下」「～のそば」	12
	9日	19	位置を表す名詞(2) 「～の前」「～の後ろ」	14
	16日	20	まとめ(2) 場所に関する表現	16
	23日	21	峡谷火祭り(1)	18
	30日	22	峡谷火祭り(2)	20
9月	6日	23	所有の表現(1) 所属形を使った表現	22
	13日	24	所有の表現(2) korを使った表現	24
	20日	25	所有の表現(3) 親族名称	26
	27日	26	まとめ(3) 所有の表現	28

私を、私たちを(に)〇〇する・ 複他動詞

- 1 okkayo en=hotuypakar.
オッカヨ エンホトウイパカラ。 男性が私を呼んだ。
- 2 ikor en=kore yan.
イコロ エンコレ ヤン。 お金を私にください。
- 3 apehucikamuy i=epunkine.
アペフチカムイ イエプンキネ。 火のカムイが私たちを守る。
- 4 húci un=reska.
フチ ウンレシカ。 おばあさんが私たちを育てた。

今日の単語

okkayo	オッカヨ	名詞	男性
en=	エン	人称接辞	私を(に)
hotuypakar	ホトウイパカラ	他動詞	～を呼ぶ
ikor	イコロ	名詞	お金、宝物
kóre	コレ	複他動詞	～に～を与える
yan	ヤン	終助詞	(命令文について)～なさいよ
apehucikamuy	アペフチカムイ	名詞	火のカムイ
i=	イ	人称接辞	私たちを(に)
epunkine	エプンキネ	他動詞	～を守る
húci	フチ	名詞	おばあさん
un=	ウン	人称接辞	私たちを(に)
reska	レシカ	他動詞	～を育てる

「私を(に)」の表現

これまで紹介してきた人称接辞は「私が」や「あなたが」のように主語になるものですが、今回は「私を(に)」のように目的語になる人称接辞を紹介します。アイヌ語で作

文するときには「～を」か「～に」によって文章は変わりません。日本語に訳すときには動詞に合わせて自然な文になるようにします。まず、「私を(に)」は人称接辞「en=」で表現します。en=を他動詞の前につけることで「私を〇〇する」と表現することができます。例文1では、動詞 hotuypakar の前に en= をつけて en=hotuypakar (私を呼ぶ) という文章にしています。

「私たちを(に)」の表現

i= と un= はどちらも「私たちを(に)」を表します。使い分け方は Lesson11 で紹介した「私たちが」の時と同様、聞き手を含むか含まないかがポイントとなります。友人と話しているときに「先生が私たちを助けてくれたよね」というときの「私たち」には話し相手(友人)が含まれますが、「先生、私たちに勉強を教えてください」というときの「私たち」には話し相手(先生)は含まれていません。話し相手を含む場合は i= を他動詞の前に置き、含まない場合は un= を他動詞の前に置きます。

複他動詞(三項動詞)

これまで動詞は自動詞(一項動詞)と他動詞(二項動詞)の二種類を紹介してきましたが、複他動詞(三項動詞)といって「〇〇が□□に△△を～する」のように3つの名詞や人称接辞をとることができる単語があります。例文2の「kóre」は複他動詞で「〇〇が□□に△△を与える」という意味があります。人称接辞の使い方は他動詞と同じです。

「～した」の表現

例文1,4では「呼んだ」や「育てた」のように過去の表現を紹介しています。アイヌ語は「～する」という表現と「～した」という表現をするときに動詞の形が変わりません。例文3は「火のカムイが私を守る」と訳していますが、「火のカムイが私を守った」とも解釈することができますので、文脈から判断する必要があります。

コラム

アペフチカムイ

アペフチカムイ(火のカムイ)はたくさんいるカムイの中でも特に大切にしています。生活を送る上では料理をするにも寒い時に暖をとるにも生きていくうえで欠かせない役割を担ってくれています。また、アペフチカムイはカムイノミ(儀礼)の時には様々なカムイへの言葉を届ける際に伝言役を担ってくれます。そのおかげでもしも自分の言葉に不備があってもアペフチカムイが補ってくれるので儀礼をつつがなく終わることができます。

15 お前、お前たちを(に)〇〇する

- 1 seta e=nospa. セタ エノシパ。 犬がお前を追いかける。
- 2 wakka es=kure. ワッカ エシクレ。 (彼が) 水をお前たちに飲ませる。
- 3 núman okkayo es=kasuy. ヌマン オッカヨ エシカスイ。 昨日、男性があなたを助けた。
- 4 kakkok haw e=eyukar kusu kakkok e=pakasnu. カッコク ハウ エエユカラ クス カッコク エパカシヌ。 カッコウの声をお前が真似したからカッコウがお前をこらしめる。

今日の単語

seta	セタ	名詞	犬
e=	エ	人称接辞	お前を(に)
nospa	ノシパ	他動詞	～を追いかける
wakka	ワッカ	名詞	水
es=	エシ	人称接辞	お前たちを(に)、あなたたちを(に)、あなたを(に)
kúre	クレ	複他動詞	～に～を飲ませる
núman	ヌマン	名詞、副詞	昨日
okkayo	オッカヨ	名詞	男性
kasuy	カスイ	他動詞	～を手伝う
kakkok	カッコク	名詞	カッコウ
haw	ハウ	名詞	声
e=	エ	人称接辞	お前が
eyukar	エユカラ	他動詞	～を真似する
kusu	クス	接続助詞	～ので
pákasnu	パカシヌ	他動詞	～をこらしめる

「お前を(に)」の表現

「お前を(に)」というように一人の話し相手を目的語として言いたい場合には、人称接辞「e=」を動詞の前につけて表現します。例文1ではnospa(～を追いかける)の前にe=をつけて「～がお前を追いかける」という文にしています。

「お前たちを(に)」の表現

「お前たちを(に)」というように複数人の話し相手を目的語として言いたい場合には、人称接辞「es=」を動詞の前につけて表現します。例文2ではkúre(～が～に～を飲ませる)にes=をつけて「～が～をお前たちに飲ませる」という文章にしています。es=は丁寧な表現としても使います。つまり「あなたを(に)」や「あなたたちを(に)」という意味でも使うことができます。そのため、例文2は「彼が水をお前たちに飲ませる」とも「彼が水をあなたに飲ませる」とも「彼が水をあなたたちに飲ませる」とも解釈することができます。どの意味でes=を使っているのかは文脈から判断する必要があります。

主語を表す e=, es= との違い

e= や es= は、「お前が」や「お前たちが」のように主語として使うときも、目的語として使うときも、同じ形の人称接辞を使います。そのため、e= の場合は「お前が」なのか「お前を」なのか、es= の場合は「お前たちが」なのか「お前たちを」なのか、文脈から判断する必要があります。実際に例文4では、一つの文章の中で「お前が」のe=と「お前を」のe=が使われていますので文脈から判断する練習をしてみましょう。まず前半部の「kakkok haw e=eyukar」は「カッコウの声をお前が真似する」という文ですが、ここではe=を主語として使っています。もし、これを反対にすると「カッコウの声がお前を真似する」というヘンテコな文章になります。また、後半部の「kakkok e=pakasnu」は「カッコウがお前をこらしめる」という文ですが、反対にすると「お前がカッコウをこらしめる」となります。一見、意味は通っていますが、前半部と合わせてみると「お前がカッコウの声を真似したから、お前がカッコウをこらしめる」という奇妙な文章になってしまいますので、「カッコウがお前をこらしめる」が正しいと判断することができます。

コラム

カッコウ

カムイはアイヌモシリ(人間の国土)に降りる際に、その姿かたちになってくものと考えています。また、カムイはアイヌモシリですべき自分の役目を持って降りてきます。カッコウの場合、祭壇にとまって鳴いているときには別のカムイからの伝言を知らせてくれています。アイヌ語名のカッコウは日本語と同じく鳴き声からつけられており、人々は春に聞こえてくるカッコウの鳴き声を知らせとしてマスをとったり、畑に種を植えたりします。このように時期を知らせる大事な役目を担っているのです。子どもたちが真似をして自分たちより先に鳴きだすとカッコウは腹を立てて、その真似をする子どもをカムイの国へ連れて行ってしまおうという物語が伝承されています。

「私を(に)」「私たちを(に)」の表現

- 「～が私を○○する」と表現するときには動詞の前に人称接辞「en=」をつけます。

例：① seta en=nukar. セタ エヌカラ。 犬が私を見る。

- 「～が私たちを○○する」と表現するときには聞き手を含むか含まないか判断します。聞き手を含む場合は動詞の前に人称接辞「i=」をつけます。

例：seta i=nukar. セタ イヌカラ。 犬が（聞き手を含む）私たちを見る。

- 聞き手を含めない場合は人称接辞「un=」をつけます。

例：seta un=nukar. セタ ウンヌカラ。 犬が（聞き手を含めない）私たちを見る。

「お前を(に)」「お前たちを(に)」「あなたを(に)」「あなたたちを(に)」の表現

- 「～がお前を○○する」と表現するときには動詞の前に人称接辞「e=」をつけます。

例：seta e=nukar. セタ エヌカラ。 犬がお前を見る。

- 「～がお前たちを○○する」と表現するときには動詞の前に人称接辞「es=」をつけます。また、「es=」は「あなたを」や「あなたたちを」のように丁寧な表現をするときにも使います。

例：seta es=nukar. セタ エシヌカラ。 犬がお前たちを見る。
犬があなたを見る。
犬があなたたちを見る。

- 「お前を」のように「話し相手」を目的語として使う人称接辞「e=」は、主語として使う人称接辞と同じ形なので、どちらなのかは文脈から判断する必要があります。

例：seta e=nukar. セタ エヌカラ。
主語) お前が犬を見る。 目的語) 犬がお前を見る

- 「お前たちを」「あなたを」「あなたたちを」のように「話し相手」を目的語として使う人称接辞「es=」は、主語として使う人称接辞と同じ形なので、どちらなのかは文脈から判断する必要があります。

例：seta es=nukar. セタ エシヌカラ。
主語) お前たちが犬を見る。 目的語) 犬がお前たちを見る。
主語) あなたが犬を見る。 目的語) 犬があなたを見る。
主語) あなたたちが犬を見る。 目的語) 犬があなたたちを見る。

複他動詞(三項動詞)

「○○が□□に△△を～する」のように3つの名詞や人称接辞をとることができる動詞があります。

例：① kóre ○○が□□に△△を与える。
húci wakka en=kore. フチ ワッカ エンコレ。おばあさんが私に水をくれる。
② kúre ○○が□□に△△を飲ませる。
húci wakka en=kure. フチ ワッカ エンクレ。おばあさんが私に水を飲ませる。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

位置を表す名詞と場所と動詞をつなぐ 言葉の表現「～で」「～へ」「～から」「～に」

- | | | |
|---|--|--------------|
| 1 | 北広島 or ta ku=sukup.
北広島 オッタ クスクプ。 | 私は北広島で育った。 |
| 2 | satporo or ene paye=an rok.
サップロ オレネ パイエアン ロク。 | 札幌へ行きましょう。 |
| 3 | tomakomay ekota paye=an rok.
トマコマイ エコタ パイエアン ロク。 | 苫小牧へ行きましょう。 |
| 4 | nayoroputu or wa ku=kor tokuy ek.
ナヨロプトゥ オロ ワ クコツ トクイ エク。 | 名寄から私の友達が来る。 |
| 5 | tompuri or ku=osus.
トンプリ オロ クオスシ。 | 私はお風呂に入る。 |

今日の単語

or	オロ	位置名詞	～のところ
ta	タ	格助詞	～で
ku=	ク	人称接辞	私が
sukup	スクプ	自動詞	育つ
satporo	サップロ	固有名詞	札幌
ene	エネ	格助詞	～へ
paye	パイエ	自動詞	行く
=an	アン	人称接辞	(聞き手を含む) 私たちが
rok	ロク	終助詞	～しましょう
tomakomay	トマコマイ	固有名詞	苫小牧
ekota	エコタ	後置副詞	～へ
nayoroputu	ナヨロプトゥ	固有名詞	名寄
wa	ワ	格助詞	～から
kor	コロ	他動詞	～を持つ：(所有の表現のとき) ~の○○
tokuy	トクイ	名詞	友達

ek	エク	自動詞	来る
tompuri	トンプリ	名詞	お風呂
osus	オスシ	他動詞	～で(水を) 浴びる

場所を表す名詞

アイヌ語では、例文 1,2,4,5 のように場所にあたる名詞の後ろには or をつけます。or は直前の名詞が場所であることを明確にする意味があり、「～のところ」と訳すことができます。ただし、例文 3 のように ekota を使うときには or をつけません。or のように場所を表す名詞を位置名詞と言います。

場所と動詞をつなぐ表現

「○○で働く」の「で」や「○○へ行く」の「へ」などのように場所と動詞をつなぐ単語を格助詞と言います。

例文 2,3 はどちらも「○○へ行きましょう」という表現ですが、場所と動詞をつなぐ言葉が違います。多くの地域では例文 2 で使っている ene のように「～へ」を表す格助詞で表現しますが、旭川方言では ene はほとんど使わず、後置副詞の ekota を使います。

後置副詞というのは、基本的には名詞の後ろに置かれる副詞のことですが、格助詞と違うのは、独立して(つまり前に名詞が無くても)使えるということです。たとえば、行く場所が苫小牧だとわかっている場合、tomakomay ekota paye=an rok. という代わりに、ekota paye=an rok. 「そこへ行きましょう」ということができますが、格助詞を使って ene paye=an rok. とすることはできません。格助詞は名詞が前に来なければ使えないからです。その場合には、位置名詞(Lesson18 で説明します)の or を前に置いて、or ene paye=an rok. としなくてはなりません。

場所と動詞をつなぐときに、ekota 以外にも格助詞を使わない表現もあります。例文 5 の「osus (～を浴びる)」のように、その前に格助詞無しで直接「場所」を表す名詞を置くことができる動詞もあります。そのような動詞の場合も、前に来る名詞には or を付けます。

コラム

アイヌ語地名

北海道の地名の約 8 割はアイヌ語由来です。登別や稚内のように「○○ベツ」や「○○ナイ」という地名をよく見かけますが、これは「～川」を意味するアイヌ語です。そのほかに岐登牛(キトウシ)「いつもギョウジャンニクを採るところ」や帯広(オペレレケブ)「川尻が割れているところ」などのように、その土地の形や環境、活用法によってつけられています。

位置を表す名詞(1) 「~の上」「~の下」「~のそば」

- | | |
|--|--|
| <p>① cisekitay ka wa cikap hopuni.
チセキタイ カ ワ チカプ ホプニ。</p> <p>② yuk enka ta hat níkao.
ユク エンカ タ ハツ ニカオ。</p> <p>③ ni corpok an=osinot.
ニ チョロポク アノシノツ。</p> <p>④ en=samake ta kikir an.
エンサマケ タ キキリ アン。</p> <p>⑤ en=ekota inkar yan.
エネコタ インカラ ヤン。</p> | <p>屋根から鳥が飛び立つ。</p> <p>鹿の上でヤマブドウがなっている。</p> <p>木の下で私たちが遊ぶ。</p> <p>私のそばに虫がいる。</p> <p>私の方を見なさい。</p> |
|--|--|

今日の単語

cisekitay	チセキタイ	名詞	家の屋根
ka	カ	位置名詞	(接している) ~の上
wa	ワ	格助詞	~から
cikap	チカプ	名詞	鳥
hopuni	ホプニ	自動詞	飛び立つ
yuk	ユク	名詞	鹿
enka	エンカ	位置名詞	(接していない) ~の上
ta	タ	格助詞	~で、~に
hat	ハツ	名詞	ヤマブドウ
níkao	ニカオ	自動詞	実がなる
ni	ニ	名詞	木
corpok	チョロポク	位置名詞	~の下
an=	アン	人称接辞	(聞き手を含む) 私たちが
osinot	オシノツ	他動詞	~で遊ぶ
en=	エン	人称接辞	私の
samake	サマケ	位置名詞	~のそば
kikir	キキリ	名詞	虫
an	アン	自動詞	ある、いる (単数)
ekota	エコタ	後置副詞	~へ
inkar	インカラ	自動詞	見る
yan	ヤン	終助詞	(命令文について) ~なさいよ

おさらい

位置名詞を使った表現をするときには「ni corpok (木の下)」のように日本語と同じ感覚で言葉を並べることで表現できます。

Lesson17では位置名詞「or」を紹介しましたが、今回はそのほかの位置名詞をいくつかご紹介します。

「~の上」

「~の上」を表す単語はいくつかあり、状況や場所によって使い分ける必要があります。今回は例文1,2で2種類の「上」を紹介していますが、kaとenkaは「接触している上」か「接触していない上」かで使い分けられます。ごく普通のシチュエーションで考えたときに「机の上にコップがある」というときは机とコップが接しているためkaを使い、「私の上に雲がある」というときは私と雲は接していないためenkaを使います。接触しているか、接触していないかということは日本語を話すときには意識することはないため、特に注意が必要です。

「~の下」、 「~のそば」

「~の下」と表現するときにはcorpokを使い、「~のそば」と表現するときにはsamakeを使います。どちらも「~の上」のように接触しているか接触していないかによって言葉を使い分けることはありません。

人称接辞と位置名詞の組み合わせ

例文4では人称接辞と位置名詞を組み合わせた表現を紹介しています。「私」と「位置名詞」を組み合わせて表現するときにはen=samake「私のそば」のように目的格の人称接辞en=を使います。そのほかの人称接辞を使った表現をするときにも同様に「私たちの」はun=i、「お前の」はe=、「あなたの」、「お前たちの」、「あなたたちの」はes=を使います。

後置副詞ekotaは「~へ」なので意味的には格助詞の「ta (~で)」や「wa (~から)」と近いですが、使い方が異なります。人称接辞をつけるときには、直接ekotaにen=をつけてen=ekota(私の方へ)といいます。taを使って同じような表現をする場合にはen=or ta(私のところで)というように間にorなどの位置名詞を入れる必要があります。

コラム

チセ

アイヌの家は三角屋根に縦長の構造になっており、笹やカヤを葺いて作ります。入り口から入るとまずモセム(物置)があって、そこからもう一つ入り口をくぐって、母屋へと入ることができます。母屋は基本的に間仕切りのない構造となっており、中心には炉が切っけてあります。梁はそれほど高くないためその上に物を置くことができます。また、家には上座、下座があります。一番上座のところには交易で手に入れた漆器などの大切なものを安置しているイオイキリ(宝壇)があります。

位置を表す名詞(2) 「~の前」「~の後ろ」

- ① en=etoko ta seta hoyupu.
エネトコ タ セタ ホユプ。 私の前で犬が走る。
- ② cise kotcake ta kuma an.
チセ コツチャケ タ クマ アン。 家の前に干し竿がある。
- ③ i=okake wa mékot ek.
イオカケ ワ メコツ エク。 私たちの後ろから猫が来る。
- ④ en=osmake ta sike ama yan.
エノシマケ タ シケ アマ ヤン。 私の後ろに荷物を置きなさい。

今日の単語

en=	エン	人称接辞	私の
etoko	エトコ	位置名詞	~の前
ta	タ	格助詞	~で、~に
seta	セタ	名詞	犬
hoyupu	ホユプ	自動詞	走る
cise	チセ	名詞	家
kotcake	コツチャケ	位置名詞	~の前
kuma	クマ	名詞	干し竿
an	アン	自動詞	ある、いる
i=	イ	人称接辞	(聞き手を含む) 私たちの
okake	オカケ	位置名詞	~の後ろ
wa	ワ	格助詞	~から
mékot	メコツ	名詞	猫
ek	エク	自動詞	来る
osmake	オシマケ	位置名詞	~の後ろ
sike	シケ	名詞	荷物

ama	アマ	他動詞	~を置く
yan	ヤン	終助詞	(命令文について)~なさいよ

例文1と2では「~の前」、例文3と4では「~の後ろ」という表現を紹介しています。日本語に訳した時には、同じく「前」や「後ろ」ですが、アイヌ語はそれぞれ違っています。これは、アイヌ語で「~の前」や「~の後ろ」を表現するときには、基準となるものが「動いている」か「動いていない」かによって使い分けの必要があるためです（使い分け方については表を参照）。基準になるものとは、それぞれの位置名詞の直前にある言葉のことで例文1ではen=、例文2ではciseとなります。

	動いている	動いていない
~の前	etoko	kotcake
~の後ろ	okake	osmake

例文1でポイントを確認すると、まずetokoは「~の前」を意味する単語です。そして、直前についている言葉は「en=(私の)」なのでen=etokoは「私の前」ということが分かります。そして、etokoは動いているものの前を指す単語なので、基準となるものである「私」が動いていることが分かります。そのため、例文1は散歩中に自分自身も犬と一緒に走っているなどのシチュエーションが想像できます。逆にetokoをkotcakeに変えてen=kotcake ta seta hoyupuという文章だった場合、止まっている自分の前を犬が走っていることとなりますので、例えばドッグランなどで犬が走っている様子を飼い主は見届けているなどのシチュエーションが想像できます。前を使った表現を例に紹介しましたが、後ろを使った表現の場合も同様です。

コラム

セタ

アイヌにとっては狩りのおともになるとても大事なパートナーです。熊と遭遇した時には犬が真っ先に攻撃を仕掛け、けん制している間に主人は毒矢を射かけます。もし熊に逃げられたとしても、その嗅覚で犬が追いかけてくれるので容易に見つけられます。白い犬は狼のカムイの子孫とされ大切にされる一方で、黒い犬は意気地なしや、飼い主を不幸にするなどと言われ好かれていません。ネアンペ ネ ヤッカ ソンノ クエラマス。私はどちらも大好きです。

まとめ(2) 場所に関する表現

- 場所を表す名詞を「位置名詞」といいます。
- or は場所を表す言葉の後ろに置かれ、場所であることを明確にします。「～のところ」と訳すことができます。また、「or」と「ta」が並んだ時には or の音が代わり、「otta オッタ」と発音します（音韻交代については Lesson 8 参照）。

例：mintar or ta seta hoyupu. ミンタラ オッタ セタ ホユプ。
庭（のところ）で犬が走る。

- ①「～の下」は corpok ②「～のそば」は samake を使います。

例：① seta corpok ta kikir an. セタ チョロポク タ キキリ アン。
犬の下に虫がいる。

② seta samake ta kikir an. セタ サマケ タ キキリ アン。
犬のそばに虫がいる。

- 「～の上」はそこにかかわるもの同士が①接触しているか②接触していないかを判断して使い分けます。

① ka カ （接触している）～の上

例：seta ka ta cikap rew. セタ カ タ チカプ レウ。
犬の上に鳥が止まる。

② enka エンカ （接触していない）～の上

例：seta enka ta niskur an. セタ エンカ タ ニシクル アン。
犬の上に雲がある。

- 「～の前」「～の後ろ」は基準となるものが①動いているか②動いていないかによって使い分けます。

① etoko（動いているもの）～の前

okake（動いているもの）～の後ろ

② kotcake（動いていないもの）～の前

osmake（動いていないもの）～の後ろ

例文：① seta en=etoko ta apkas. セタ エネトコ タ アプカシ。
犬が私の前を歩く。

② seta en=kotcake ta apkas. セタ エンコツチャケ タ アプカシ。
犬が私の前を歩く。

どちらの例文でも「～の前」を表す単語にかかっているのは「en=(私)」です。つまり、「私」が動いているかどうかは etoko と kotcake を使い分けるポイントです。①は動いているものの前を表す etoko を使っているため、犬と一緒に私も歩いています。②は動いていないものの前を表す kotcake を使っているため、私は歩かずに犬だけが歩いています。

- 場所と動詞をつなぐ単語を「格助詞」といい、場所を表す言葉の後ろに置きます。

ta タ ～で

例：mintar or ta seta hoyupu. ミンタラ オッタ セタ ホユプ。
庭で犬が走る。

ene エネ ～へ

例：mintar or ene seta hoyupu. ミンタラ オレネ セタ ホユプ。
庭へ犬が走る。

wa ワ ～から

例：mintar or wa seta hoyupu. ミンタラ オロ ワ セタ ホユプ。
庭から犬が走る。

- 旭川方言では ene を使った表現はほとんど使わず、後置副詞の ekota を使います。また、ekota を使う場合は「場所」を表す単語に or をつけず、「en=(私)」など目的語の人称接辞を付ける場合は「en=ekota」のように直接、人称接辞をつけます。

例：mintar ekota seta hoyupu. ミンタラ エコタ セタ ホユプ。
庭へ犬が走る。

en=ekota húci inkar. エネコタ フチ インカラ。
私の方をおばあさんが見る。

- 「場所」を表す単語を格助詞を入れずにとることができる動詞もあります。このような動詞の場合も、場所を表わす名詞の後ろに or を付けます。

例：mintar or seta osinot. ミンタラ オロ セタ オシノッ。
庭で犬が遊ぶ。

峡谷火祭り(2)

先週に続き、上川町層雲峡の火祭りの様子をご紹介します。ピリカノ ヌ ワ ウンコ
レ ヤン! (よくよくお聴きください!)



所有の表現(1) 所属形を使った表現

- ① ne seta siki pon.
ネ セタ シキ ポン。 その犬の目は小さい。
- ② ku=cise ta sinot=an rok !
クチセ タ シノツァン ロク! 私の家で遊びましょう!
- ③ yuk cikiri ku=tuye.
ユク チキリ クトゥイエ。 私は鹿の足を切る。
- ④ e=sapo en=kopan.
エサポ エンコパン。 お前の姉は私を嫌う。

今日の単語

ne	ネ	連体詞	その、あの
seta	セタ	名詞	犬
siki	シキ	名詞	～の目
pon	ポン	自動詞	小さい
ku=	ク	人称接辞	私の
cise	チセ	名詞	～の家
ta	タ	格助詞	～で
sinot	シノツ	自動詞	遊ぶ
=an	アン	人称接辞	(聞き手を含む) 私たちが
rok	ロク	終助詞	～をしましょう
yuk	ユク	名詞	鹿
cikiri	チキリ	名詞	～の足
tuye	トゥイエ	他動詞	～を切る
e=	エ	人称接辞	お前の
sápo	サポ	名詞	～の姉
en=	エン	人称接辞	私を
kopan	コパン	他動詞	～を嫌う

所有の表現

「私の手」や「私の足」のように「～の〇〇」という形のものを所有の表現といいます。

概念形と所属形

名詞には身体名称や親族名称など単語によって「概念形」と「所属形」という形を持つものがあります。例えば目の概念形は sik、所属形は siki といい、「人間の目」や「犬の目」のように一般的な目というものについて話をしたいときには概念形の「sik」を使い、「私の目」や「飼っている犬の目」のように特定のものの目を指す場合には所属形の「siki」を使います。例文 1 を見てみると「ne seta その犬」と言っているの、まさに今目の前にいる犬（つまり特定のもの）のことを指していることが分かると思います。そのため、この文章からは「普通の犬と比べて、目の前にいるその犬の目は小さい」などのシチュエーションが想像できます。これを概念形の文にすると「seta sik pon 犬の目は小さい」となりますが、「犬の目は熊の目と比べて小さい」などのように解釈することができます。

つまり、ここでいう犬は特に目の前にいるものではなく、「いわゆる（一般的な）犬というもの」を指した文章となります。

概念形と所属形の形が同じ単語があり、例文 2 で使用している cise もその一つです。

所属形を使った表現

「①所有者+②もの（所属形）」の順番に言葉を並べるとできます。例文 2 をみると ku=cise(私の家)が所有の表現で、① ku= (私) が所有者、② cise (の家) がものという風に構成されています。例文 2 は人称接辞を使った文でしたが、例文 3 のように名詞と名詞を組み合わせた表現の場合も同様に① yuk (鹿) が所有者、② cikiri (の足) がものという風に構成されています。

コラム

鹿

狩猟や採取で生活していた時代のアイヌにとって鹿は大事な獲物の一つです。鹿は鹿をつかさどるカムイがいて地上に降ろすものと考えています。地名に幾千世(ユクチセ)のような鹿にまつわる地名がたくさん見られることからアイヌにとって重要だったことが分かります。9月から11月の繁殖期にはイパブケニ(鹿笛)という道具を使ってオス鹿の鳴き声を出します。すると別のオス鹿が自分のテリトリーに入ってきたと思い、排除しようとオス鹿がよって来るので、そこを狙って狩りをします。

所有の表現(2) korを使った表現

- | | | |
|---|--|----------------|
| 1 | es=kor makiri pirka ruwe.
エシコロ マキリ ピリカ ルウエ。 | あなたの小刀は素敵ですね。 |
| 2 | ci=kor ikor nukar yan.
チコロ イコロ ヌカラ ヤン。 | 私たちの宝物を見てください。 |
| 3 | e=sikihi hure.
エシキヒ フレ。 | お前の目が赤い。 |
| 4 | toankur kor mekot numaha takne.
トアングル コロ メコツ ヌマハ タクネ。 | あの人の猫の毛は短い。 |

今日の単語

es=	エシ	人称接辞	あなたの
kor	コロ	他動詞	~を持つ：(所有の表現のとき) ~の○○
makiri	マキリ	名詞	小刀
pirka	ピリカ	自動詞	良い、美しい
ruwe	ルウエ	形式名詞	こと、の
ci=	チ	人称接辞	(聞き手を含まない)私たちが
ikor	イコロ	名詞	お金、宝物
nukar	ヌカラ	他動詞	~を見る
yan	ヤン	終助詞	(命令文について)~なさいよ
sikihi	シキヒ	名詞	~の目
hure	フレ	自動詞	赤い
toankur	トアングル	名詞	あの人
mekot	メコツ	名詞	猫

numaha	ヌマハ	名詞	~の毛
takne	タクネ	自動詞	短い

korを使った表現

「①所有者+② kor (~の) +③もの」の順番に言葉を並べると表現できます。例文1の es=kor makiri (あなたの小刀) が所有の表現で、① es= (あなた) が所有者、② kor (~の)、③ makiri (小刀) がものという風に構成されています。

所有の表現の使い分け

アイヌ語で所有の表現をするときには「所属形を使った表現」と「korを使った表現」があります。2つの所有の表現は使い分けがあり、それが譲渡可能かどうかで判断されます。譲渡可否の判断については、小刀や宝物は誰かにあげれば受け取った人の所有物になるため譲渡可能と考えます。一方で、人から髪の毛をもらったとしても、自分の頭に生やすことはできないので譲渡不可と考えます。譲渡可能なものは kor を使った表現、譲渡不可なものは所属形で表現します。

所属形の短形と長形

「目」の所属形には siki と sikihi のように二つの形があります。siki を短形、sikihi を長形と呼び、そのほかの所属形を持つ単語も同様にこの短形、長形を持ちます。長形は「h + 母音」で表現できますが、母音のところには短形の最後の母音を入れます。numaha (~の毛) の短形は numa です。numa の最後の母音は a なので h+a で numaha という形になっています。

長形を使うか短形を使うかによって意味は変わりません。

コラム

マキリ

マキリは小刀の総称で、鞘と柄には作り手がそれぞれに文様を施します。狩りや料理の時に使うのはもちろん、野草採取や木の皮を剥ぐなど材料採取にも使用します。また、男性から女性にプレゼントすることで恋心を伝えることができるロマンチックな要素も兼ね備えており、アイヌにとって欠かすことのできない道具です。

所有の表現(3) 親族名称

- 1 ku=kor totto kemeyki.
クコロ トット ケメイキ。 私のお母さんが針仕事する。
- 2 es=unuhu iwanke ya?
エシウヌフ イワンケ ヤ? あなたのお母さんはお元気ですか?
- 3 ku=karku utar sonno ku=omap.
クカラク ウタラ ソンノ クオマフ。 甥っ子たちを私は本当に可愛がる。
- 4 húci an ruwe?
フチ アン ルウエ? おばあさんいますか?

今日の単語

ku=	ク	人称接辞	私が、私の
kor	コロ	他動詞	~を持つ：(所有の表現のとき) ~の○○
totto	トット	名詞	お母さん
kemeyki	ケメイキ	自動詞	針仕事する
es=	エシ	人称接辞	あなたの
unuhu	ウヌフ	名詞	~の母親
iwanke	イワンケ	自動詞	元気
ya	ヤ	終助詞	~か? (疑問)
karku	カラク	名詞	甥
utar	ウタラ	名詞	~たち
sonno	ソンノ	副詞	本当に
omap	オマフ	他動詞	~を可愛がる
húci	フチ	名詞	おばあさん

an	アン	自動詞	ある、いる
ruwe	ルウエ	形式名詞	こと、の

「私の母」や「あなたの母」のような親族名称を使った所有の表現は Lesson23 でも軽く触れていますが、今回はもう少し詳しく紹介します。

親族名称を使った所有の表現

例文1では「totto」、例文2では「unuhu」を使って「母」を表しています。tottoは日常語であり、自分の母に対して呼びかける際にも使う言葉であるのに対して unuhuは丁寧な表現で他人の母親のことをいうときに使ったり、他人に自分の母のことをいうときに使います。また所有の表現の使い方にも違いがあり、「私の母」というときには tottoの場合は kor を使って表現をするため「ku=kor totto」となり、unuhuの場合は所属形を使った表現をするため「ku=unuhu」となります。

「妹」の表現と呼びかけ

「兄から見た妹」では turesi、「姉から見た妹」では mataki を使います。また、親族関係に無くても親しい男女は ku=yupo (私のお兄さん)、ku=turesi (私の妹) とお互いを呼び合います。このように親族関係に無くても親族名称を使うことがあります。例文4ではおばあさんへの呼びかけとして húci を使っています。húci のように kor を使って所有の表現をする単語は、そのまま呼びかけとして使うことができます。所属形を使った表現の場合は ku=yupo などのように人称接辞は省かずに呼びかけに使います。

コラム

他地域の親族名称

旭川では母を呼びかけるとき日常語でトットということを紹介しましたが、他の多くの地域ではハポといいます。昔、鶴川の有名な伝承者が千歳の方と交流した時にハポの話をしていたところ、まったく話がかみ合わなかったことがあったそうです。なぜなら千歳ではハポというと父のことを指すためです。アイヌ語をバリバリしゃべることのできる人たちが混乱するなら自分もちんぷんかんぷんなのも当然かと安心しています。

まとめ(3) 所有の表現

3回にわたって「所有の表現」を紹介したのでまとめて確認しましょう。

- 「私の手」や「私の足」のように「～の〇〇」という形のものを所有の表現といいます。
- 所有の表現をするときには kor を使った表現と所属形を使った表現があります。使い分け方は、それが譲渡可能かどうかによって判断されます。小刀や宝物は誰かにあげれば受け取った人の所有物になるため譲渡可能と考えます。一方で人から髪の毛をもらったとしても、自分の頭に生やすことはできないため、譲渡不可と考えます。譲渡可能なものは kor を使った表現、譲渡不可なものは所属形で表現します。
- 単語には所属形と概念形という形を持つ単語があります。例えば目の概念形は sik、所属形は siki といい、人間の目や犬の目のように一般的に何かの目を指して話をしたいときには概念形の「sik」を使い、「私の目」や「飼っている犬の目」のように特定のものの目を指す場合には所属形の「siki」を使います。

例：seta sik セタ シク (一般的な) 犬の目
seta siki セタ シキ (その) 犬の目

- 所属形を使った表現は「①所有者+②もの(所属形)」の順番に言葉を並べて作ることができます。人称接辞を使う場合には主語を表す人称接辞を使います。

例：ne seta kisara ネ セタ キサラ その犬の耳
ku=cise クチセ 私の家

- 所属形には短形、長形があります。長形は「短形+h+短形の最後の母音」で作ることができます。短形、長形に意味の違いはありません。

例：～の目 短形 siki シキ 長形 sikihi シキヒ
～の家 短形 cise チセ 長形 cisehe チセヘ

- kor を使った表現は「①所有者+② kor (～の) +③もの」の順番に言葉を並べて作ることができます。人称接辞を使う場合には主語を表す人称接辞を使います。

例：húci kor seta フチ コロ セタ おばあさんの犬
ku=kor seta クコロ セタ 私の犬

- 親族名称は kor を使って表現するものと所属形を使って表現するものがあります。

例：ku=kor húci クコロ フチ 私のおばあさん
e=ona エオナ お前の父

- 父や母などは①日常語と②丁寧な表現、あるいは他人に自分の母のことをいうときなどで単語が代わります。

例：① ku=kor tutto クコロ トット 私のおかあさん
② ku=unu クウヌ 私の母

- kor を使って表現する親族名称はその単語だけで呼びかけとして使用でき、所属形を使って表現する親族名称は人称接辞をつけて呼びかけます。

例：kor) tutto! トット！ お母さん！
所属) ku=turesi! クトゥレシ！ 妹！

- 妹や兄などは親族関係に無くても呼びかけとして使用することがあります。

MEMO

.....

.....

.....

.....

アイヌ語ラジオ講座 ポッドキャスト

■アイヌ語ラジオ講座では、これまで放送してきた音声とテキストをダウンロードして、いつでもどこでも気軽にお楽しみいただけます。

ダウンロードはこちら↓

<https://www.stv.jp/radio/ainugo/index.html>



テキストはこちらからもダウンロードできます↓

https://www.ff-ainu.or.jp/web/potal_site/radio.html



【注意事項】

- 平成10年度～平成11年度 Vol.1-3の音声は公開されておられません。何卒ご了承ください。
- 当テキストデータ及び音声データについて、他のウェブサイトへアップロードする等の利用行為及び営利目的に関わるすべての行為はお控えください。
- 著作権等に関する法令に遵守し、適切な範囲での利用をお願いします。

アイヌ語ラジオ講座 ウェブアンケート

■アイヌ語ラジオ講座は、初心者向けのアイヌ語やアイヌ文化にまつわるお話等を放送しております。この講座のあり方や放送内容などを検討していくにあたり、皆さまのご意見やご感想をお寄せください。なお、いただいたご意見は番組制作の参考以外に利用しません。

アンケートはこちらから↓

https://www.ff-ainu.or.jp/web/potal_site/details/web.html



■「アイヌ語ラジオ講座 CD 等の貸出」及び「郵送アンケート」の実施について令和5年3月31日を持ちまして終了しました。引き続き上記ポッドキャストやウェブアンケートを実施してまいりますので、今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

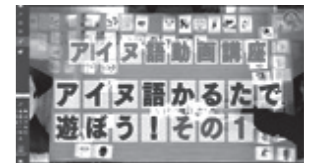
アイヌ民族文化財団 アイヌ語関連事業

■公益財団法人アイヌ民族文化財団は、アイヌ語やアイヌ文化の振興を図る事業、アイヌの伝統等に関する普及啓発事業等を実施しています。

アイヌ語に関するコンテンツ

アイヌ語動画講座

多くの皆さんに「楽しみながらアイヌ語を学んでいただきたい」「もっとアイヌ文化のことを知ってもらいたい」というコンセプトのもと、初心者向けのアイヌ語講座を動画で配信しています。



オルシペ・スウォフ

アイヌの口承文芸（お話など）の語り（アイヌ語と日本語訳）及び字幕（アイヌ語、日本語訳、多言語訳）をつけたアニメーション映像を公開しています。



アイヌ語弁論大会 イタカンロー

アイヌ語を学ぶ方々の成果発表の場であるとともに、ご来場いただいた方々を含め、「みなさんでアイヌ語を楽しみましょう」というコンセプトの大会です。大会の様子をおさめた動画が、アイヌ語ポータルサイト内にてご覧いただけます。

アイヌ語ポータルサイト

上記を含むさまざまなアイヌ語に関するコンテンツをまとめたサイトがあります。

詳しくはこちら↓

https://www.ff-ainu.or.jp/web/potal_site/index.html





先住民族アイヌを主題とした日本初の国立博物館

体験型フィールドミュージアム

国立アイヌ民族博物館

見るだけでは終わらない
新しい発見がここにある。

国立民族共生公園

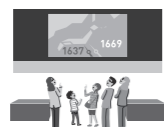
自然の中で培われてきた
先住民族アイヌの文化を五感で感じる。



アイヌ民族の視点で語る「6つのテーマ」に沿った展示等
多彩な展示方法でわかりやすく紹介します。



●私たちのことば
アイヌ語のしくみやアイヌ語由来の地名などについて、音声や映像を交えて紹介します。



●私たちの歴史
現代に続くアイヌの歴史のひろがりや連なりを視覚的にわかりやすく紹介します。



●私たちの世界
儀礼に使われる道具などを通じて、カムイ(神)の考えかた、自然観などについて紹介します。



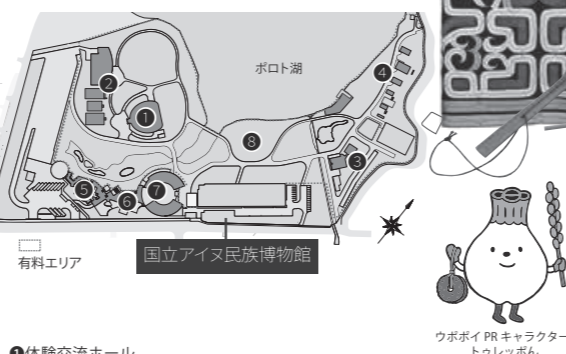
●私たちのしごと
狩猟、漁ろう、採集、農耕といった伝統的な生業のほか、現代のアイヌ民族の多様な仕事を紹介します。



●私たちの暮らし
衣食住、人の一生、音楽や舞踊など、アイヌ文化の特色や地域差を紹介いたします。



●私たちの交流
交易品を通して、様々な文化や民族との交流をたどっていくとともに、民族共生のありかたを伝えます。



- ① 体験交流ホール
重要無形民俗文化財およびユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」や、ムックリ演奏などのアイヌの芸能を披露します。
- ② 体験学習館
料理や実食体験のほか、教育旅行などの体験活動も行っています。
- ③ 工房
スタッフが製作した工芸品や素材の展示を見学できるほか、木彫や刺しゅう体験、ムックリやトンコリといった伝統楽器の体験もできます。
- ④ 伝統的コタン
かやぶきのチセ(家屋)が再現され、生活空間を体感できるエリアです。室内の見学のほか、アイヌの暮らしや文化について解説するプログラム等を実施します。
- ⑤ チキサニ広場
季節のイベントや特別プログラムを開催する広場です。ポロト湖の景観とともに楽しみいただけます。
- ⑥ いざないの回廊
⑦ 歓迎の広場
⑧ エントランス棟
木々や動物が描かれた回廊を抜けると大きな広場が迎えます。北海道のお土産などが揃うショップ、アイヌの食文化を楽しめるカフェやフードコートもあります。

■ 入場料

入場料	税込価格
大人(一般)	1,200円
大人(団体)	960円
高校生(一般)	600円
高校生(団体)	480円
中学生以下	無料

※団体(20名以上)

■ 所在地
〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3
開園情報・最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。



公式ウェブサイト



公式Facebook



会員募集のお知らせ

『賛助会員』を募集しています。

当財団は国及び北海道からの財政的な支援をいただいておりますが、法律の趣旨を踏まえ多様な事業を展開していくためには運営基盤の確立が重要であります。

このため、地元北海道はもとより、全国の個人、団体や企業の方々から、幅広くご支援をいただくことが大切であると考えております。つきましては、このような趣旨をご理解の上、賛助会員としてご入会くださいますようお願い申し上げます。

年会費 ■法人・団体／一口2万円 ■個人／一口5千円 ※各一口以上です。

会員の特典

- 財団が発行する刊行物、会報等の無料配布
(民族共生象徴空間運営事業の刊行物等は含まれません。)
- 財団が主催する展示会、講演会等の行事の案内
- アイヌ文化に関する行事、イベント等の情報の提供等
- 民族共生象徴空間入場優待券

入会方法

- ① 銀行振込または郵便振替にて会費のお支払いをご希望の方は、事前に入会申込手続きが必要です。ホームページから入会申込書をダウンロードしていただき、必要事項をご記入の上、郵送、FAX、E-mailのいずれかの方法でお申し込みください。
- ② クレジットカード決済をご希望の方は、ホームページ上で決済と入会申込手続きができます。

詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.ff-ainu.or.jp/web/overview/details/post_9.html



会費の用途

- アイヌ文化に関する書籍、写真、ビデオ等のライブラリーの整備など自主事業の充実のために充てられます。

令和8年度「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.2

発行年月 令和8年6月
編集・発行 公益財団法人アイヌ民族文化財団